

会 議 要 録

会 議 名		令和4年度 第3回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和5年1月25日（水）午後1時30分～午後3時00分
場 所		小平市中央公民館 講座室2
出席者等	委 員	15名（欠席者2名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		1名
会議内容	1 開会 2 議 事 意見交換「家族を支えるヤングケアラーについて」 3 情報提供 4 その他 5 閉 会	
配付資料	会議次第・席次表 ひまわり 第43号（令和4年度）「社会を明るくする運動」作文集 令和4年度版 若者応援ガイドブック 令和4年度版 こだいら子育てガイド	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

4 議事

意見交換「家族を支えるヤングケアラーについて」

事務局	<p>国において、「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」が行われ、令和2年度に中学2年生・高校2年生を、令和3年度に小学6年生・大学3年生を、それぞれ対象にして、ヤングケアラーと思われる子どもが、小学6年生で6.5%、中学2年生で5.7%、高校2年生で4.1%、大学3年生で6.2%いるとされている。</p> <p>この調査結果などを受けて、国では令和4年度からの3年間で「集中取組期間」として様々な支援策に取組み、ヤングケアラーの社会的認知度が向上している。</p> <p>一方、ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいこととして、子ども自身が「特に大変さを感じていない」、「子ども本人が話したくない」、「家庭内の様子がわかりにくい」、「家庭内に介入しづらい」などといったことが挙げられている。</p> <p>小平市においても、令和3年度に実施した「小平市の教育に関するアンケート調査」において、「親や祖父母、姉妹などの身の回りのお世話や 買い物・料理・掃除・洗濯などを大人に代わって行っていますか」の問いに対して、小学3年生で4.3%、小学6年生で1.8%、中学1年生で5.0%、中学3年生で4.0%が、大人が行う部分をいつもやっていると回答していることから、市内にも国の調査と同様にヤングケアラーが一定程度いるものと</p>
-----	---

	<p>考えている。</p> <p>以上のように、ヤングケアラーの支援については様々な課題があるため、この意見交換で 結論や方向性を出していただくものではない。これまでの協議会で行っている情報交換の拡大・延長と捉えていただき、普段考えていることや思いついたことを自由に述べてもらいたい。</p>
委員	<p>ヤングケアラーが、どのような複雑な経験をし、どこに困難を感じてどのように行動しているのか、介護や家事労働にとらわれず解き明かす必要がある。家族をケアすることは、良い・悪い、あるいは、苦しい・楽しいで割り切れるのではなく、また、家族のケアそのものを否定する必要はないが、過度な負担で健康を害する子どもがいることや、学校に通い、学び、友人を作る機会を奪ってしまっている場合があることを認識し、目を向ける必要がある。</p> <p>また、行政が今後、実態の把握とともに、中心となる部署が市民団体とも連携しながら支援を行っていくことも、未来ある子ども達にとって必要である。不遇の状況を続けさせないためにも、彼らへの早期の対応は喫緊の課題であると考えます。</p>
委員	<p>本来、兄弟姉妹の世話や親の介護を担うことはいいことだと思う。ヤングケアラーという社会的な課題を新聞記事などで見ると、兄弟姉妹の世話や親の介護を担うこと自体が悪いことであるような印象を受け、違和感があった。一方で、ヤングケアラーについて調べていく中で、家族の介護負担が大きいために学校にも行けず、いろいろな経験をするための自分の時間も削られるような大変な状況の子どももいるということがわかった。</p> <p>家族を介護している子どもがヤングケアラーなのかの線引きについて、みんながもっと考える必要があると思うし、そのためにはヤングケアラーに対する認識がまだまだ低いと思うので、ヤングケアラーの実態を知る機会などがあると良いと思った。</p>
委員	<p>ヤングケアラーという言葉を少し前に知った。というのも、以前体調を崩した際に、医師にヤングケアラーであることを告げられた。私には兄弟姉妹が5人おり、下の兄弟姉妹の勉強を教えたり、送り迎えなどの面倒を見ていたり、家事を担っていたことなどがストレスだったのではないかとこの見立てだった。</p> <p>そういった自身の経験から、ヤングケアラー当事者に自覚がない場合も多くあると思った。ヤングケアラーという言葉をもっと早くに知ることができたら、もしかしたら自分もそうなのではないかと考え、誰かに相談してもいいという思考になったと思うので、学校の授業などでヤングケアラーを知る機会があると良いと思った。</p> <p>また、ヤングケアラーの家庭環境を変えることは難しいが、精神的な支援であれば可能であると思う。話を聞いてもらえるだけでも救われると思うので、匿名で電話やSNSを用いて相談ができる窓口があればいいと思う。</p>
委員	<p>例えば母、兄、妹のひとり親家庭において、母が朝から晩まで働かなければならず、兄が母の代わりに幼い妹の面倒を見ているような状況であったとする。兄の立場としては、この状況から逃げようにも逃げられない。こういった家庭に対し、虐待やネグレクトであれば介入していけると思うが、学校としてどこまで介入するかが難しい。スクールソーシャルワーカーが家庭に入っていくことはできるが、頑張っている母を責める訳にもいかず、また、スクールカウンセラーがカウンセリングとして生徒から話を聞き、受け止めてあげることができるが、そこから根本的な解決へ向けて一歩踏み込んだ支援ができないところに歯がゆさを感じている。</p>

委員	<p>民生委員として地域に根差して、地域の方と交流しながら支援しているが、先ほどの例のように家族に子どもがいる場合は、家族全体を把握し、相談支援の一環として母親と接触できれば話を聞くこともある。また、社会福祉協議会の生活相談支援センターにはＣＳＷがおり、家族全体の相談ができるので、そういった相談窓口を利用するのも良いと思った。</p> <p>国がヤングケアラーの概念を周知するのはとても良いことである。一方で、自身がヤングケアラーであることに気付いていない子どもに対して、支援者からヤングケアラーであることを指摘するのは、その子を不安にさせる可能性もあると思う。そうならないためにも、ヤングケアラーの支援という概念にとらわれず、関係機関が連携してその家族全体の支援を考えていくことが大切であると思う。</p>
委員	<p>家から怒鳴り声がするという通告があり関わった家庭の事例で、実際は認知症の祖父を父が介護していた際に大きな声を上げることがあったのだが、父自身も癌になり、祖父と父を高校生の息子が介護するという家庭状況であることがわかった。その家庭には、地域包括や訪問看護など支援も入っており、行政の関係機関はポイントではその家庭を知っていたはずだが、ヤングケアラーという視点で総合的にその家庭を捉えられていなかった。息子が通う高校もその状況を知らず、驚いていたが、息子自身はかなり無理をしていたようである。</p> <p>この経験から、行政の関係機関であっても、まだまだヤングケアラーの認知度が低いと感じたため、一層周知をする必要があると思う。また、そういった家庭には家事支援は入るけれども、ヤングケアラーの子どもの心のケアが、私自身の心理職としての経験からも非常に大切であると感じている。</p>
委員	<p>先日、聴覚障害の親を持つ方から、子どもの頃の話聞いた。その頃は日常的に言語と同じように手話を使い、親の会合などがあると付き添って、親の意思を代わりに相手に伝えていたのだが、親の支援というよりは、自分が手話を使っているのを友達に見られることがとても恥ずかしいと感じていたようである。その話を聞いて、ヤングケアラーとしての悩みにはいろいろな形があるのだと思った。</p> <p>イギリスでは、地域ごとにヤングケアラーを支援するプロジェクトがあり、普段家から離れられず、なかなか遊ぶことができないヤングケアラーの子どもに対して、友人とみんなで映画を観たり、パーティーを開催したりという機会を提供する取組を行っている。その子どもにとってみれば、日常の何気ないイベントに参加できることがとても嬉しいのだと紹介されていた。このことから、ヤングケアラーの子どもが友達と一緒に過ごし、いろいろな体験ができるような取組が必要なのではないかと感じた。</p>
副会長	<p>ヤングケアラーという言葉を最近知った。国や市の調査結果からすると、各小学校に数名いることになるが、私の周りではそのような家庭を把握しておらず、その実態は見えてこない。</p> <p>子どもの年齢が高くなれば、それだけ家族のためにできることが多くなり、もちろん良いことではある反面、オーバーワークになるまで本人がヤングケアラーであるという自覚を持てず、周りもそれを発見するのが難しくなるおそれもある。だからこそ、子ども自身がヤングケアラーであることに気づくきっかけを作ることは大切であると思う。そして、社会全体でヤングケアラーをフォローしていく体制を整えるためには、まずはヤングケアラーの認知度を高めていくことが必要だと感じた。</p>
委員	<p>社会問題としてヤングケアラーが注目されるようになってきたのは良いことだと思う。しかし、直接的な子どもへの「支援」という視点だと、支援する人とされる人という関係となり、それを子どもが受け止めたときに、自分</p>

	<p>はかわいそうな人なのだと感じてしまう可能性があるため、ヤングケアラーを家族の一つの形として捉え、支援するためのアプローチの方法を探っていく必要があると思う。状況によっては親へのアプローチから入るという選択もあると思うし、また、子どもへのアプローチとしては、小学生だったら関わっている児童館や学童クラブ、中学生だったら学校の先生などから、自然な形で本人に寄り添って、本人の状況を把握し、一緒に考えていけると良く、そのような仕組みがあれば良いと思う。</p> <p>また、子どもにとっては、子どもらしく自由に過ごしながら、時には親から面倒を見てもらうことが、親から大切にされたという経験となり、そのことによって相手の気持ちを理解できるようになる、あるいは、他者のために何かをやってあげるという行動に繋がるものである。そのため、否応なしに自分を差し置いて誰かのためにやらなければいけないという生活環境であると、そういった子どもの成長を妨げてしまうことになり、将来的にかなりダメージになると思うので、大きな課題であると考えている。</p>
委員	<p>ヤングケアラーについて周知することで、子ども自身に気付きを与えることは大切である。そしてその先の支援として、今の子どもたちは、電話よりも、SNSのほう抵抗なく相談できると思うので、SNSを活用した匿名での相談窓口に繋がって相談ができれば、心のケアがだいぶ変わると思う。</p> <p>また、警察が関わるケースの中で、もしヤングケアラーを把握した場合にどのように対応していくかというのは、今後小平市全体で考えていくべき課題であると思う。その際に、本日の若い世代の委員の話を聞いて、もっと若い世代の意見を聞くことが大切であると感じた。支援者の感覚と若い世代の感覚は同じではないので、若い世代が何を求めているのかを聞くことは、今後ヤングケアラーへの支援体制を考える上で非常に参考になると思う。</p>
委員	<p>以前民生委員・主任児童委員をやっていた際に、ヤングケアラーに近い子どもがいる家庭を見てきたが、地域の方が関心を寄せてくれる家庭だと、課題解決に向けてうまく先に進むことができたが、地域から孤立した家庭であると、なかなか先に進めないことがあった。子どもが困っていたら優しく声をかけてあげられるような、優しさのある地域の繋がりの大切さを改めて感じた。</p> <p>今は地域の繋がりが薄くなって、他の家庭の様子が見えなくなっている。学校の青少対活動でも、みんなで集まって話す機会がなくなり、気にかけている子どもの情報などを共有できなくなっている。以前のように、地域の繋がりを強くしていくために何ができるかを考えていきたい。</p>
委員	<p>自分の周りには子どもが家族の介護をするという状況はなかったので、ヤングケアラーという言葉はニュースで聞く程度だったが、この機会にいろいろと調べて知ることができ、問題意識を持つことは大切なことだと思った。そして、調べていく中で、子どもが相談できる相談先はたくさんあることがわかった。ヤングケアラーの課題は様々だと思うので、全てに対応するのは難しいかもしれないが、相談が増えていく中で対応をブラッシュアップしていければいいと思う。</p> <p>また、家族の介護のために子どもが時間を奪われないようにすることは大切であり、その方法もいくつか考えられると思う。例えば、食事作りなどの時間がかかる家事の負担を軽くするために、親の要介護認定を緩和させて家庭に支援が入りやすくするなど効果的であると思う。</p>
委員	<p>ヤングケアラーが、自分の体調が悪くなるまで自覚することなく家族の介護を続ける状況があるという話に愕然とした。子どもは本来、いろいろな体験をしながら成長できる時間を過ごし、その余力で家族の手伝いをするものだと思うが、その時間を削られ、かつ、やらざるを得ない環境で家族の介護</p>

	<p>を行うのは、本来の青少年の健全育成の形ではないと思う。ヤングケアラーの支援のため、また、ヤングケアラー自身が自覚するためには、ヤングケアラーを広く知ってもらうことは大事だと思った。そして、家族の介護はサービスで代行できたとしても、本人の精神的なサポートが大切であり、地域のコミュニティやネットワークを活用し、個々の状況に適したサポートができる仕組みを作っていくことが大事である。</p> <p>また、行政が個々の家庭の課題を把握していても、総合的な視点がないために、全体が結び付かないこともあると思うので、これからは家庭の課題を総合的に見ていく部署が必要になると思う。</p>
委員	<p>ヤングケアラーについて、自分の周りにはそのような家庭がなく、また、その家庭の状況を知る術もなく、それでも一定数はいるのだろうと思っていたが、実は小学生の頃から長く知っている子がヤングケアラーであったということを知り、身近な人でも家庭の中までは知らないことがあるのだと思った。また、その事実を知ってから思い出されるのは、その子が食事作りの講座に参加していた際に、家でもやっているからと言ってきれいに洗い物をしていた姿であり、当時から優しい気持ちで家族のために手伝いをしていて、年齢が上がるにつれできることも増えていき、とても頑張っていたんだなと感じた。</p> <p>これから小中学生と関わる中で、周りにアンテナを張って、気が付いたことがあれば直接声をかけるなど、できる範囲のことをやっていきたい。</p>
会長	<p>委員の方々の意見を聞き、大変勉強になった。ヤングケアラーの社会的認知度を高めていくことがまずは大切なことであり、それがヤングケアラー自身の気付きへと繋がっていく。それから、支援という面では人的支援と精神的支援の2つが大きな課題となってくるのではないかと思う。また、そこに行政や地域がどこまで関わっていけるのか、どのような形でサポートしていけるのかなど、これからの課題であると思う。</p> <p>本日いただいたご意見は、事務局において今後のヤングケアラーの支援施策の参考にされるものと思う。</p>

5 情報交換・意見交換

委員	<p>具体的な話を交えながら、青少年の課題に対して何ができるかを考えていける協議会であり、とても大切な場であると感じながら参加させてもらった。</p>
副会長	<p>この協議会に参加して、各委員の意見から多くを学ぶことができた。今後の青少対活動に活かしていきたい。</p>
委員	<p>各委員のいろいろな視点からの意見を聞くことができ、また、行政側の動きも知ることができたので、今後の活動に活かしていきたい。</p>
委員	<p>定期的にこの協議会に集まり、その都度青少年の課題について話し合うことで、今まで知らなかったことや、地域の実態などについて知ることができて、非常に勉強になった。行政としては今後、課題に対する調査やその後の施策の検討など、さまざまな観点から考えていく必要があると思うが、さらに良い施策を展開していくことを期待している。</p>
委員	<p>大学で社会教育を学び、興味のある分野であったのでこの協議会に参加させてもらった。各委員の立場からの意見を聞き、自分の考えも深まった。今後も地域づくりや、地域の対策について学びを深めていきたい。</p>

委員	子どもが障がい児であり、この分野に興味があったことから、協議会に参加させてもらった。協議会でいろいろな課題について話し合ってきたが、自分が思っていたよりも支援策がいっぱいあることを知って安心した。貴重な体験ができたことに感謝したい。
委員	行政の取組や各委員の意見を聞き、大変参考になった。市内で児童と保護者のサポートをしているが、ここでの経験を今後に活かしていきたい。
委員	来年度から保育士として働くことが決まっているが、子どもと家庭を見守る側の人間として必要な経験ができた。今後の協議会においても、もっと若者が活発に議論できる場となることを期待している。
委員	この協議会で得た情報を、青少年委員の定例会でなるべく他の委員にも共有しながら活動してきた。ヤングケアラーについても、まだ知識のない委員もいると思うので、知ってもらえるよう共有していきたい。
委員	地域や個人が、子ども達の想いをどのように形にして、どのように展開していくかを話し合えるこの協議会は大変有意義だった。今後も子ども達の環境の改善に全力を注いでいきたい。
委員	この協議会では、若者の課題に視点を当てているが、その先には地域や家族の課題などがあるため、民生委員・児童委員として関係機関と連携し、子ども達が健やかに過ごしていける環境を作っていく必要があると改めて感じた。
委員	学校という場で考えると、日々問題、課題は出てくる。すぐに解決できないこともあるが、この協議会の場でさまざまな意見をいただきながら、地域や行政と連携し、一歩ずつ取り組んでいきたい。
委員	このような協議会で話し合える機会はなかなかないので、引き続き各委員の意見をいただきながら、警察としての業務に反映させていきたい。
委員	各委員の活発な意見を伺えて、大変勉強になった。これまでに他市の協議会に多く参加してきたが、若者当事者が参加している協議会は初めてであり、議論に厚みが出るので非常に良いと思った。今後も若者の意見を聞ける協議会にしていってほしい。
会長	<p>この協議会というのは、委員からの意見を行政が受け止め、具体的な施策に反映させていく場であるので、各委員から様々な角度から、また、それぞれの立場から意見をいただき、非常に有意義な協議会となったことに感謝したい。そして、若者当事者がこの協議会に参加していることがとても良いことである。</p> <p>また、会長という職を8年間務めさせていただいた。みなさまに支えられながら、私自身の成長にもなったと感じており、大変感謝している。今後も小平市の子どもたち、若者たちの幸せを願っている。</p>